

平成 12 年 6 月 1 日

表彰委員長

石 黒 辰 吉

## 平成 11 年度表彰について

平成 11 年度の表彰を本年度の定期総会の場で行うこととし、会員から受賞候補者の推薦を募集するとともに、各賞選考部会における検討結果を受けて表彰委員会で審議し、賞の候補者を決定した。（敬称略）

### 1. 功 勞 賞

功勞賞は、本会の会員であり、本会の発展に貢献若しくは臭気に関する分野において特に優れた功績を認められた個人に贈呈されるものである。

#### ○ 小 倉 四 郎 氏

(社)臭気対策研究協会 前副会長

(受賞理由)

昭和 61 年悪臭公害研究会常任理事に就任、当協会の社団法人創立に参画され、社団法人 臭気対策研究協会発足とともに副会長並びに運営委員長として、永年にわたり協会の運営面、財政面の基盤強化に尽くされた功績は非常に顕著であります。

### 2. 学術賞

学術賞は、本会の会員であり、臭気に関する論文・著作等学術的研究成果が特に優れた個人に贈呈されるものである。

#### ○ 増 田 淳 二 氏

大阪市立環境科学研究所 環境工学課研究主任

(受賞理由)

京都大学で西田耕之助氏の指導をうけ、臭気の感覚的測定に関する研究を始められ、大阪市立環境科学研究所に勤務されてからも臭気に関する研究を継続され、各種悪臭発生源の臭気発生実態の研究、臭気の拡散予測手法及び評価方法の研究に優れた成果をあげており、学術賞にふさわしいものである。

### 3. 技術賞

技術賞は、本会の正会員、公共会員および賛助会員である法人会員又はこれらに所属する個人又はグループで、臭気に関する調査研究又は臭気対策技術等に関して顕著な貢献があったと認められる者等に贈呈されるもので次の 3 社に決定した。（五十音順）

#### ○ 栗田工業株式会社 取締役社長 三 東 崇 秀

(受賞理由)

充填塔式生物脱臭装置の開発に関し、わが国で他社に先駆けて実用化を進め効率性、

確実性の向上等問題点の克服に努めてこられた実績は技術賞にふさわしいものである。

○ 株式会社 島津テクノリサーチ 代表取締役社長 石田 泰夫

(受賞理由)

高度な臭気測定技術を有し、嗅覚測定法や機器測定法について、学術的に有用な調査結果を発表している。特に臭気指数3号規制に係わる研究成果は規制手法の確立に寄与した。また臭気指数測定法研修会などに貢献した実績は大きく、技術賞にふさわしいものである。

○ 日本デオドール株式会社 代表取締役 柿本 元

(受賞理由)

中小規模事業所用として、植物精油の中和消臭力を利用し、装置として管理、制御できるシステムを開発した。さらに適用範囲を拡大して身近な臭気発生源対策として、快適な居住空間や老人ホーム等のさわやかな雰囲気作りに優れた実績をあげており、技術賞の対象としてふさわしいものである。